

# 長野県革新懇ニュース

2019年8月号  
発行日 8月10日  
会費 2,000円  
購読料 3,000円(送料込)  
振替 0510-3-15971

243

発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会  
(長野県革新懇) 発行人: 山口光昭 編集長: 高村裕  
〒380-8790 長野市県町593 高校教育会館内  
TEL: 026-234-1231 FAX: 026-234-2219 メール: mail@nagano-kakushinkon.com

====今号の主な記事====

- 1面 前座明司さんインタビュー
- 2面 1面続き、近現代信州の歴史回廊
- 3面 「市民と野党の共闘のたまもの一参院選の結果について」日米安保についての投稿、今井康之さん、読者の声
- 4面 随筆「雨よ降り」16『孤独』と健康 窪島誠一郎さん  
映画評論『主戦場』内山到さん  
漢字パズル

長野県革新懇

検索



## 被爆者運動は父から

## 託された歴史的使命

まえざ あきし さん  
前座 明司 さん

(長野県原爆被害者の会副会長)

### 被爆者運動に奔走した父、前座良明の思い出

Q 被爆者運動を牽引されてきた、お父さんの前座良明さんの思い出をお話し下さい。

父が、松本の信大のそばでピカドン食堂を始めたのが1961年、私が中学2年のときです。父はそれまで運動をしていたようですが、勤めに出ていたので、日々の活動の記憶はあまりありません。しかし、食堂を始めてからは朝から夜まで自宅にいましたので、一所懸命何かに取り組んでいたという思い出があります。私は子どもですから、被爆者のことやピカドンという店名の意味もわかりませんでした。丁度、長友会(長野県原爆被害者の会)設立の時期だったと思います。当時

は守秘義務云々という時代ではなかったで、被爆者名簿を閲覧でき、それをとくに父が300人ぐらいの名簿をつくったわけです。それを見ながら、背中を丸めて一所懸命に書類をつくったり、送っている姿を見て、父はいつか何をしているんだろうと思いつつ、発送を手伝った記憶があります。

私が高校に行ってから、親族の義理も欠くほどに東京や全国の会議に出かけていました。その頃は全国組織の立ち上げも絡んでいたし、すでに重要なポジションにいて、リードする立場にあつたと思います。だから、子どもに何で母に店を全部任せているんだろうと思っていました。実際、母の苦勞は大変だったと思います。

それが子ども時代の父の印象ですが、父が亡くなってから10年が経ち、私が長野県組織の代表として全国理事会などに出ていくと、父が止むに止まれず活動していたという気持ちやうと理解できるようになってきています。

### ピカドンの店名は被爆者運動の象徴

Q ピカドンという店名の由来をお聞かせ下さい。

そもそのきつかけは、父の甥が「被爆者運動やっているんだから、思い切つてピカドンって名前をつけたらどうだ」というアドバイスがあったようです。私は今、それがかなりいいと思っていますが、当時はピカドンの意味も原爆の何たるかも知りません

でした。おそらく松本でピカドンの意味をご存知の方はほとんどいなかったと思います。そのうちに運動を続ける中で信毎やNHK、朝日新聞などにもとりあげてもらい、だんだん理解が広がっていき、父の思いが松本市民、長野県民、さらに被爆者運動に携わっている全国の人々に伝わっていったと思います。

### 日本の加害責任を意欲していた父

Q 被爆体験についてはどんなことを話されていましたか？

父はよく、「自分は被害者だけれども、加害者でもあるんだ」ということは言っていました。中国戦線に行っていたので、おそらくかなり戦争の実態を見てきたと思います。残酷な話は具体的にはしてはくれませんでした。チラチラと言っていましたね。だから今もって私の原点にあるのはやはりそれですね。アメリカによる無差別殺人の原爆投下はとんでもない話ですが、一方で、今の日本政府に言いたいのは、日本軍が朝鮮半島や中国、台湾、東南アジアの人々に対して一体何をやったのかということですね。国として何をさせたのかというのをきくと反省してかからないと、日本がこれからアジアとか世界の国の一つとして共存共栄していくことはできないと思います。それがまず前提になるのではないのでしょうか。原爆投下による壮絶な被害の実態を訴える上でも、日本が行った加害の歴史を直視することが非常に

重要だと思っています。

### 多くの被爆二世が健康に不安

Q 二世だということについてどうお考えですか？

私自身は今まで、被爆二世として差別を受けたという記憶はありませんが、広島や長崎では就職や結婚などでかなりの差別がありましたし、今でもなくなっているわけではありません。私個人については、両親が松本に引き上げてきて、私を産んでくれた育ててくれたことは感謝しています。だからと言って、二世という立場が消えるわけではありません。

### 被爆者援護に及び腰な国の姿勢

Q 被爆者援護に対する政府の姿勢についてはどうですか？

1980年に「原爆被爆者対策基本問題懇談会」が答申した意見書で、被爆者や戦争被害者は受忍しろといういわゆる受忍論が出され、日本被爆協はただちに「原爆批判の欠落」と「国の戦争責任の回避」をきびしく抗議しました。このときの父の手記を見てもうかがえますが、「悔しくて一睡もできなかった」と書いてありました。そんな状況ですから、被爆者であることとを明らかにしていない皆さんはなかなか声を上げられない状況があります。健康手帳を持っていない被爆者でも、健康手当は満足できるものではありません。貰い得だとか、ネットで書く人がいるんですが、そういうものが出てくる風潮があります。2009年に当時の麻生太郎総理大臣と日本被爆協の間で確認した毎年の定期協議についても最近では実行されないような状況になっています。国がもう少し被爆者の立場に立つて考えることが必要だと思っています。

二世について言えば、多くの皆さんが不安を感じながら暮らしているわけですが、人数については約20万人、40万人ということ、確たる数字はないし、国は調査すらしようとしていません。おそらく調査して何か出てくると余計な予算が必要になるという

【2面に続く】